

公共牧場をめぐる情勢

生産局畜産部畜産振興課

データは、「①登録牧場:地域の畜産振興を目的として、乳用牛並びに肉用牛の集団的育成もしくは繁殖または飼料としての乾草生産等を行う牧場であって、地方公共団体、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業(畜産)公社または牧野組合等の団体(10戸以上の畜産農家を構成員とするものに限る)が、牧場の管理運営に関する規定(牧野法第3条第1項の牧野管理規定を含む)を定めて管理運営をしている牧場」及び「②非登録牧場:構成員の関係等から①の基準に達しないが、①に準ずる牧場」に対して実施した公共牧場経営実態調査結果より取りまとめたものである。

平成 2 1 年 5 月

農林水産省

1. 公共牧場の利用状況

- ① 公共牧場数は、減少傾向で推移しており、平成20年度は全国で862牧場。
- ② 公共牧場の利用頭数は、16年度は増加したものの17年度以降減少しており、20年度の利用頭数(夏期:7月1日時点)は、全国で145千頭、畜種別では乳用牛が83千頭、肉用牛が62千頭となっている。

○公共牧場数、利用頭数及び牧草地面積等の推移

		昭45	55	平2	7	15	16	17	18	19	20
牧場数		914	1,179	1,146	1,053	945	933	915	897	883	862
利用頭数(千頭)(7月1日時点)		113	213	214	187	157	172	165	155	147	145
	乳用牛	69	129	119	120	102	111	104	95	89	83
	肉用牛	43	84	95	67	55	61	61	60	57	62
牧草地面積(千ha)		48	97	108	110	104	103	102	98	95	92
野草地面積(千ha)		46	61	69	35	47	41	42	41	39	38
1 牧 場 当 た り	利用頭数(頭)(7月1日時点)	123	181	187	178	166	185	180	172	166	168
	牧草地面積(ha)	52	83	94	104	110	110	111	109	107	106
	1ha当たり頭数(頭)	2.35	2.19	1.98	1.70	1.51	1.67	1.62	1.58	1.54	1.58

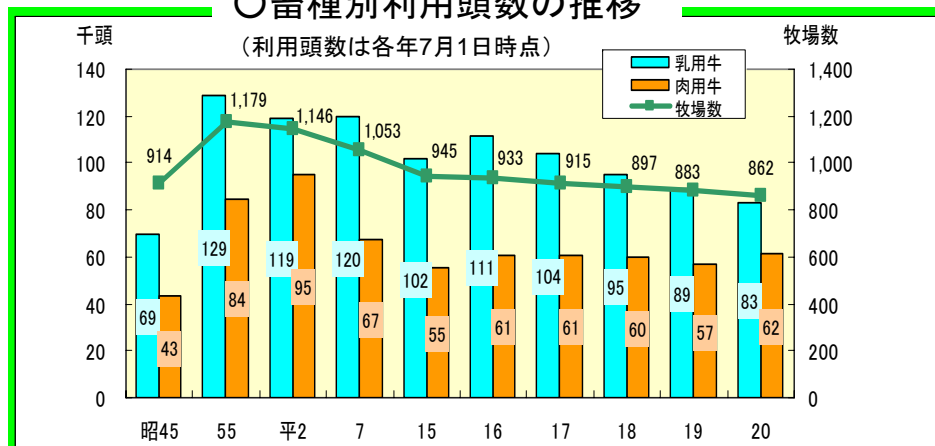
資料:畜産振興課調べ。

注1:野草地面積は、放牧等に供した野草地及び林地の面積。

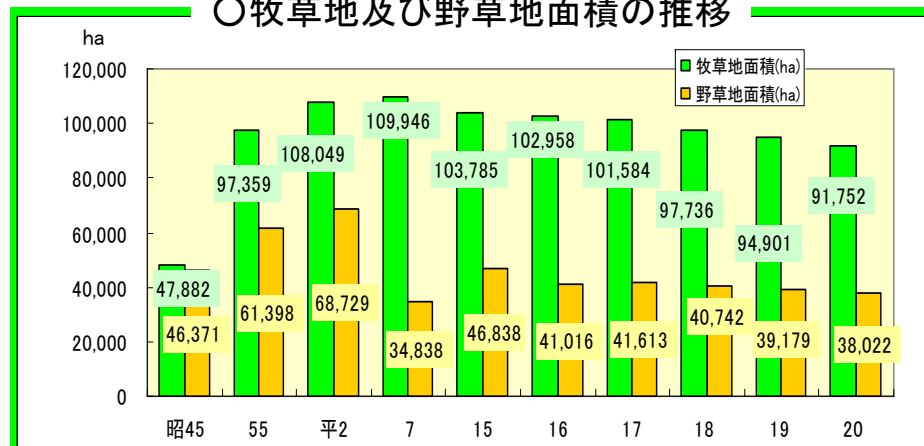
注2:平成12年までは都道府県の認定した公共牧場のデータのみを集計。

注3:平成14年より調査手法を変更。

○畜種別利用頭数の推移



○牧草地及び野草地面積の推移

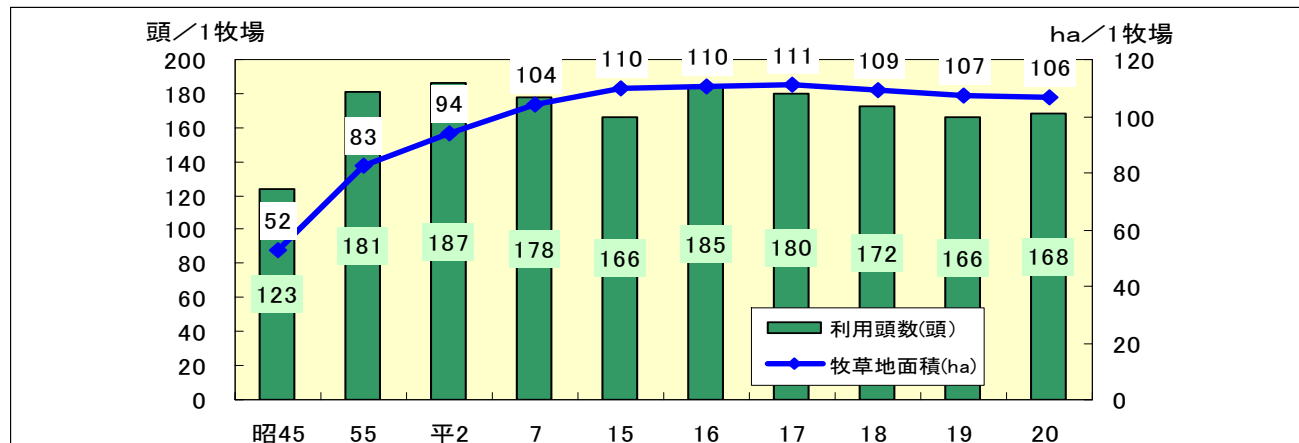


- ③ 畜種別の夏期(7月1日時点)における利用状況は、乳用牛が約57%、肉用牛が約43%となっている。また、地域別では、北海道で乳用牛の割合が約78%と大きく、逆に都府県では肉用牛の放牧割合が約67%と大きくなっている。
- ④ 1牧場当たりの利用頭数及び草地面積は、横ばい傾向で推移しており、平成20年度における1牧場当たりの夏期の利用頭数は168頭、1牧場当たりの草地面積は106haとなっている。

○公共牧場の利用状況(平成20年)

	牧場数	利用頭数(千頭)(7月1日現在)			牧草地 面積 (千ha)	野草地 面積 (千ha)	1牧場当たり		
		計	乳用牛	肉用牛			頭数 (頭) ①	草地 (ha) ②	1ha当たり 頭数 (頭/ha) ①/②
全 国	862	145 (100.%)	83 (57.4%)	62 (42.6%)	92	38	168	106	1.58
北海道	214	79 (100.%)	61 (78.1%)	17 (21.9%)	51	6	368	239	1.54
都府県	648	66 (100.%)	22 (32.7%)	44 (67.3%)	41	32	102	63	1.63

○1牧場当たりの利用頭数及び牧草地面積の推移



資料:畜産振興課調べ
注:利用頭数は各年7月1日時点

- ⑤ 大家畜の放牧対象頭数に占める公共牧場の利用頭数割合は、全国で乳用牛が約16%、肉用牛が7%となっている。
- ⑥ 公共牧場を利用した農家戸数は全国で約17千戸となっている。公共牧場の管内または管外の農家の利用割合をみると、管内の農家の利用割合が85%と高く、ほとんどが管内農家の利用となっている。なお、北海道では、乳用牛で約21%が管外の農家となっている。
- ⑦ 大家畜飼養農家における公共牧場の利用状況は、乳用牛飼養農家が約36%、肉用牛飼養農家が約9%となっている。

○大家畜の放牧対象頭数に占める公共牧場の利用頭数割合(平成20年度) (単位:千頭、%)

	乳用牛			肉用牛		
	放牧対象頭数 ①	放牧頭数 ②	利用頭数割合 ②/①	放牧対象頭数 ③	放牧頭数 ④	利用頭数割合 ④/③
全 国	535	83	15.5	887	62	7.0
北海道	338	61	18.2	88	17	19.5
都府県	196	22	11.0	799	44	5.6

資料:畜産振興課調べ、統計情報部「畜産統計」20年2月

注1:乳用牛の放牧対象頭数は、未經産牛(2歳以上の未經産と2歳未満の計)に係るもの

注2:肉用牛の放牧対象頭数は、子取り用めす牛に一歳未満雌牛(一歳未満の子取り用めす牛を除く)の1/2及び一歳未満雄牛の1/2を加算したもの

注3:公共牧場の放牧頭数は、20年度7月現在の頭数

○公共牧場の管内・管外別利用農家戸数及び畜種別の割合(平成20年度) (単位:戸)

	管 内				管 外				合 計
	乳用牛	肉用牛	その他	計	乳用牛	肉用牛	その他	計	
全 国	7,373 (84%)	6,414 (87%)	378 (81%)	14,165 (85%)	1,434 (16%)	925 (13%)	89 (19%)	2,448 (15%)	16,613
北海道	3,336 (79%)	713 (94%)	186 (81%)	4,235 (81%)	876 (21%)	45 (6%)	45 (19%)	966 (19%)	5,201
都府県	4,037 (88%)	5,701 (87%)	192 (81%)	9,930 (87%)	558 (12%)	880 (13%)	44 (19%)	1,482 (13%)	11,412

注 :その他は、馬、めん山羊

○公共牧場の利用農家割合(平成20年度) (単位:戸、%)

	乳用牛			肉用牛		
	農家戸数	利用農家	利用率	農家戸数	利用農家	利用率
全 国	24,400	8,807	36.1	80,400	7,339	9.1

資料:畜産振興課調べ

注 :農家戸数は、畜産統計(平成20年2月1日)の飼養戸数。

⑧ 公共牧場の草地面積は、約92千ヘクタールで、牧草地面積全体の約15%を占めている。
特に、都府県では、牧草地面積の約4割を占めており、公共牧場は重要な自給飼料基盤となっている。

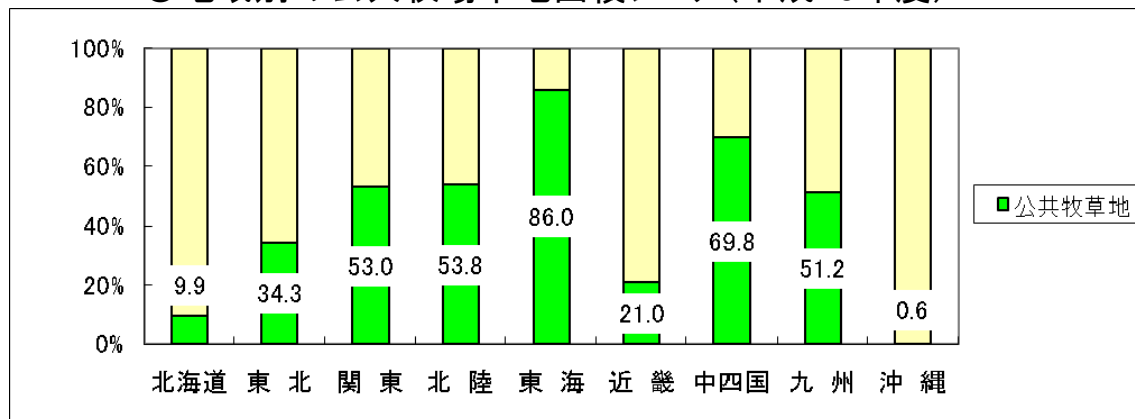
○牧草地面積に占める公共牧場の草地面積のシェア(平成20年度)

	牧場数	牧草地面積 (ha) ①	公共牧場草地面積 (ha) ②	シェア (%) ②/①
全 国	862	621,300 (100.%)	91,752 (100.%)	14.8
北海道	214	517,900 (83.4%)	51,068 (55.7%)	9.9
都府県	648	103,400 (16.6%)	40,684 (44.3%)	39.3
東北	277	63,800 (10.3%)	21,915 (23.9%)	34.3
関東	98	11,200 (1.8%)	5,932 (6.5%)	53.0
北陸	28	2,190 (0.4%)	1,178 (1.3%)	53.8
東海	30	1,620 (0.3%)	1,394 (1.5%)	86.0
近畿	6	576 (0.1%)	121 (0.1%)	21.0
中四国	40	4,210 (0.7%)	2,940 (3.2%)	69.8
九州	168	14,000 (2.3%)	7,167 (7.8%)	51.2
沖縄	1	5,790 (0.9%)	37 (0.0%)	0.6

資料:統計情報部「耕地及び作付面積統計」、畜産振興課調べ

注 : 牧草地面積は、耕地及び作付面積統計(平成20年7月15日)

○地域別の公共牧場草地面積シェア(平成20年度)



2. 公共牧場の所有形態及び管理委託状況

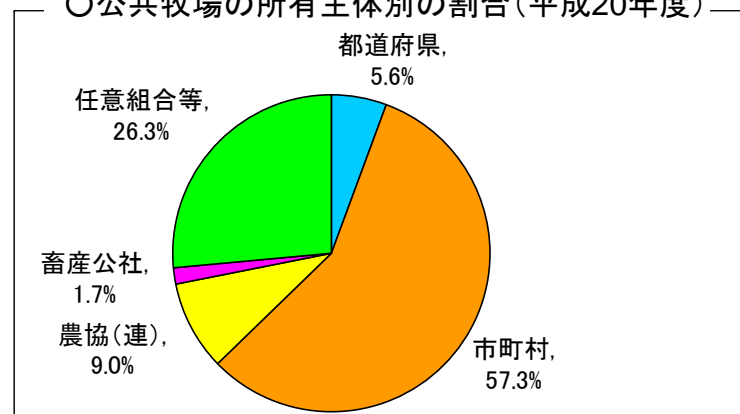
公共牧場の所有形態を見ると、都道府県所有が6%、市町村所有が57%、農協(連)所有が9%、畜産公社等所有が2%、その他任意組合等所有が26%となっている。

管理状況を見ると、地方自治体所有の59%が管理委託しているのに対し、地方公共団体以外の所有する牧場では、76%自己管理となっている。

○公共牧場の管理委託状況(平成20年度)

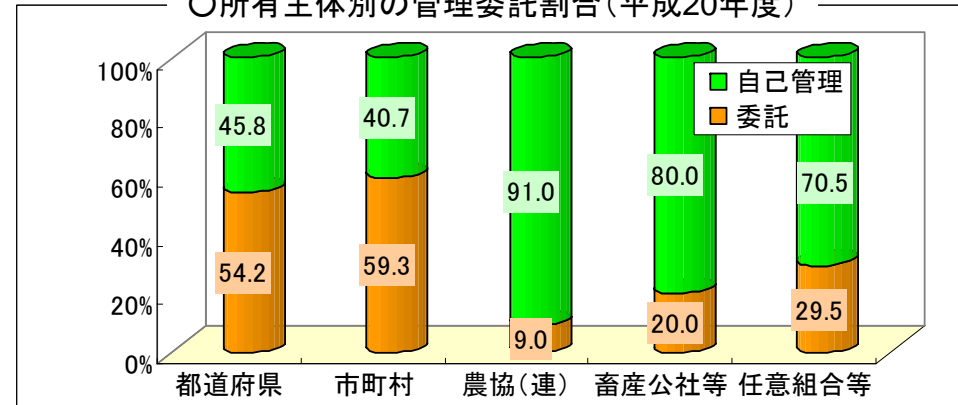
所有形態	牧場数 ①		管 理 方 法							委託管理割合 ②/①
			自己管理	委 託 管 理						
				計 ②	都道府県	市町村	農協(連)	畜産公社	任意組合等	
(地方自治体)	542	(62.9)	223	319	0	0	109	43	167	58.9
都道府県	48	(5.6)	22	26	—	0	8	14	4	54.2
市町村	494	(57.3)	201	293	0	—	101	29	163	59.3
(地方自治体以外)	320	(37.1)	243	77	0	11	10	6	50	24.1
農協(連)	78	(9.0)	71	7	0	1	—	2	4	9.0
畜産公社	15	(1.7)	12	3	0	0	1	—	2	20.0
任意組合等	227	(26.3)	160	67	0	10	9	4	44	29.5
合 計	862	(100.0)	466	396	0	11	119	49	217	45.9
割 合		100.0		45.9	0.0	1.3	13.8	5.7	25.2	

○公共牧場の所有主体別の割合(平成20年度)



資料: 畜産振興課調べ

○所有主体別の管理委託割合(平成20年度)

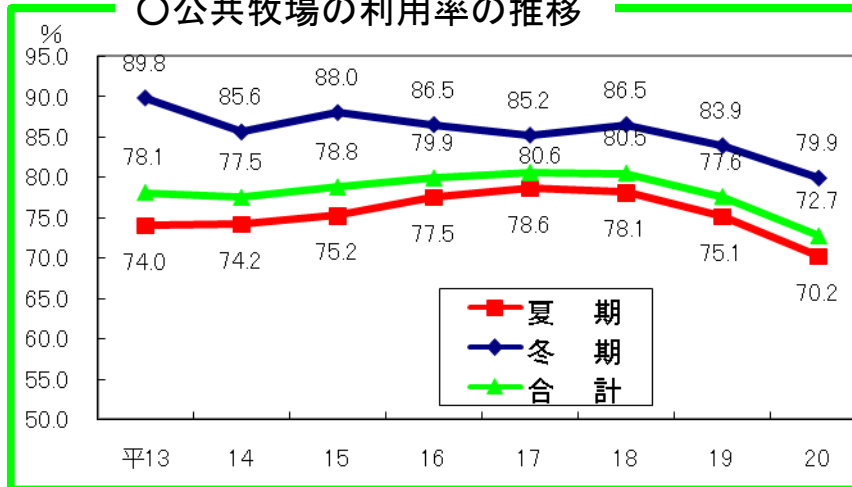


3. 公共牧場の利用率

公共牧場の利用率(受入放牧頭数/受入可能頭数)は減少傾向で推移しており、夏期(7月1日)における利用率は70.2%、冬期(1月1日)は79.9%、夏期と冬期を合わせた利用率は72.7%となっている。

また、全国の公共牧場の夏期における利用率別の割合を見ると、利用率90%以上の牧場が31.6%、利用率70~89%の牧場が27.2%、利用率50~69%の牧場が22.3%、利用率50%未満の牧場が18.9%となっている。

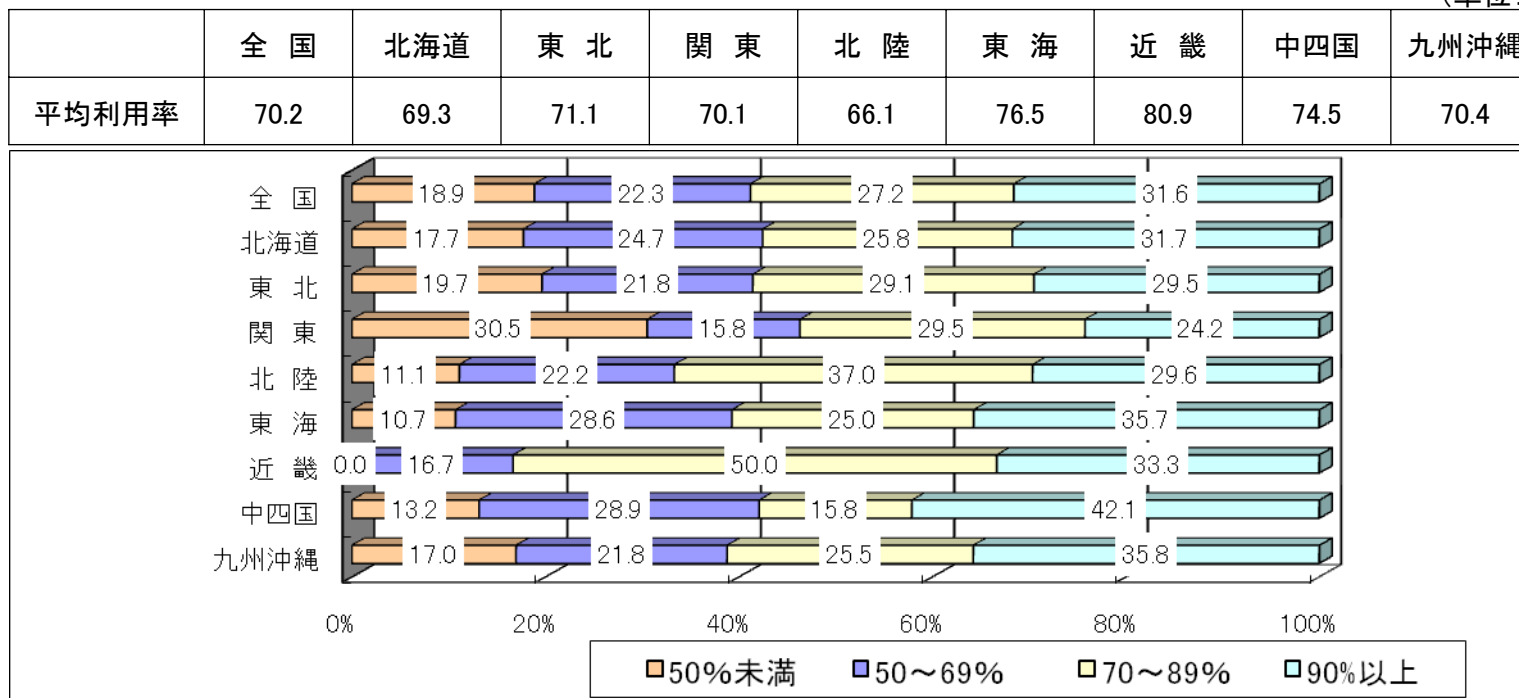
○公共牧場の利用率の推移



資料: 畜産振興課調べ

○公共牧場の地域別の利用率(夏期:7月1日)

(単位: %)



資料: 畜産振興課調べ(夏期の利用頭数より算定)